様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年３月３１日現在

機関番号：１７１０２
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2010
課題番号：２０５２０３３２
研究課題名（和文）　明代家刻本と白話小説：清平山堂を例として

研究課題名（英文）　The Family Publishers and Vernacular Stories in the Ming Era: With Special Reference to Qingpingshantang

研究代表者
中里見　敬（NAKAZATOMI SATOSHI）
九州大学・言語文化研究院・准教授
研究者番号：３０２５０９６３

研究成果の概要（和文）：
出版が盛んになる明代には、文人が出資して出版する家刻本が増え、詩文集・史書・医薬書等に混じって白話小説が刊刻されることもあった。本研究では杭州・洪楩の清平山堂を例として、その出版事業と白話小説刊行の関係を考えた。かつて語り物として演じられていた物語は、文人の関与する明代家刻本として出版されることによって洗練された白話小説へと発展した。白話文体の成立、および小説という文学ジャンルの成立において、家刻本が果たした役割の重要性と具体的な諸相を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：
During the Ming era when the publishing industry rose, some literati published vernacular stories as well as miscellanies, historical writings, and medical books from their family publishers. We picked up the Qingpingshantang publisher run by Hong Pian in Hangzhou as such a typical case, and illuminated the relationship between its publishing and vernacular stories. The Ming family publishing played an important role not only in the process that the oral stories originally told and performed in the Song and Yuan eras eventually developed into the written vernacular stories, but also in the process of establishing written vernacular Chinese and “xiaoshuo” as a literary genre.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	1,500,000	450,000	1,950,000

研究分野：　中国文学
科研費の分科・細目：　文学・各国文学論・文学論
キーワード：　中国文学

１．研究開始当初の背景

明代嘉靖年間の杭州で洪楩の清平山堂が刊行した書籍のうち、現在、文学史上とくに知られているのは、現存最古の短編白話小説

集『清平山堂話本』、『雨窓欹枕集』である。清平山堂刊行の小説は主として小説史上の資料として扱われてきた。一方で、清平山堂は同時期に『路史』、『新編分類夷堅志』、『六臣註文選』、『唐詩紀事』等の書籍、さらには医薬書を刊行していたことが知られている。こうした幅広い出版事業を行っていた洪楩がなぜ白話小説を刊行したのかという問題について、清平山堂の家刻本出版全体の中で考えることは、従来あまり行われてこなかった。

こうした点に着目した研究がこれまで行われなかったのは、研究分野の細分化によって、小説は小説史研究のみの観点で追究されてきたことに一因がある。本研究はこうした研究の細分化を突破するだけでなく、洪楩・清平山堂という一事例をとおして、明代家刻本の一般的性質を明らかにしようとすること、さらに白話小説の成立を家刻本という出版の事業形態との関連の中で再検討しようとするものである。

２．研究の目的

本研究は、清平山堂の小説出版を、洪楩による家刻本出版事業全体の中に位置づけ、従来たんに小説史の観点から研究されてきた同書を、書誌学・版本学・出版史の観点から再検討しようとするものである。

具体的には次のような方法による。清平山堂が刊行した書籍のうち、『路史』、『新編分類夷堅志』、『六臣註文選』、『唐詩紀事』等が現存し、そのなかには清平山堂が刊刻の際に依拠したと思われる旧本（宋本や覆宋本）までも現存する例がある。つまり、清平山堂刊本が、先行する旧本をどの程度まで忠実に覆刻・重刻したかを、具体的に比較検討する資料が残されているわけである。したがって、両者を版本学的に比較検討し、家刻本としての清平山堂刊本の性質を明らかにすることができれば、清平山堂刊行の小説集についても、その出版の性質や現存しない旧本の姿を、ある程度推論することが可能になるものと期待される。

３．研究の方法

清平山堂が刊行した小説は、日本の国立公文書館内閣文庫に所蔵される十五編、中国の北京大学図書館に所蔵される十二編、および中国国家図書館所蔵の残本二編が現存する。流伝の経緯を異にする三種類の清平山堂所刊小説について、それぞれの版本および各編の特徴を考察するとともに、清平山堂の小説全体という観点からも書誌学的な検討を行う。

ついで、清平山堂が刊行した書籍のうち現存する『路史』、『新編分類夷堅志』、『六臣註文選』、『唐詩紀事』等について、それらの依拠したと思われる旧本との版本学的な比較を行う。とくに、版式と文字（異体字や誤字なども含めて）がどのように継承され、あるいは改変されているかに着目して調査する。その結果をまとめ考察することにより、清平山堂の出版に見られる版式や刻字の傾向、ないし版本学的な特徴を見いだす。

最終段階として、清平山堂の家刻本としての特徴から推論することによって、清平山堂の小説がどのような旧本にもとづいて重刻されたのか、旧本の形態を可能な限り探っていく。同じ清平山堂から刊刻された書籍である以上、出版の版本学的形態において共通性をもつと考えることは、一定の合理性をもつはずである。

さらに、清平山堂の事例を明代の家刻本の出版史に位置づけること、また家刻本の出版文化から小説史を再考すること等、新たな問題提起と研究課題・方法の提示を行いたい。

４．研究成果

（１）清平山堂刊行の小説版本について

清平山堂刊行の小説を中心に、家刻本としての清平山堂刊本の特徴を検討した。国立公文書館内閣文庫蔵本、北京大学図書館蔵本、中国国家図書館蔵本の紙質、版式等を比較検討した。

破損が激しく、これまで清平山堂刊本であるかどうか確証の得られていなかった中国国家図書館蔵阿英発見残本について、平成２０年度はマイクロフィルムによる調査を行ったが、平成２１年度の調査では原本の調査が許可され、紙質、版匡の大きさ等を確認した。一部のページについては、書影の電子データを取得した。その結果、版心に「清平山堂」と刻されてはいないものの、他の二箇所に所蔵される版本との共通性から清平山堂刊本であるとの結論に至った。

北京大学図書館所蔵の『雨窗欹枕集』についても原本の調査を実施し、紙質、版匡の大きさ等を確認した。部分的に版本の撮影も行った。国立公文書館内閣文庫所蔵の『清平山堂話本』十五種とは、紙質にかなりの違いが感じられるものの、版式等はおおむね一致する。

そのほかに、版本調査に基づいて国内外三箇所に所蔵される版本の関係を考察し、とくに異体字の使用状況について明らかにした。

（２）清平山堂刊行の小説以外の版本について

清平山堂刊行の小説以外の版本については、国立公文書館内閣文庫所蔵の『新編分類夷堅志』と『唐詩紀事』、および京都大学人文科学研究所所蔵の『六臣註文選』を実見し、家刻本としての清平山堂刊本の特徴を検討した。あわせて明清時代の様々な刊本を調査することによって、清平山堂刊本の位置づけについて一定の理解を得た。

調査の過程で、関西大学泊園文庫所蔵『唐詩紀事八十一巻』（宋嘉定十七年懐安假守王禧慶長校刊）は、『関西大学泊園文庫蔵書書目』の記載によれば、清平山堂刊本の依拠した宋本かと期待されたが、原本調査の結果、明嘉靖二十四年張子立刊本であることが判明した。

また、清平山堂刊行の『六臣註文選』と比較検討するために、斯波六郎「文選諸本の研究」（『文選索引』所収、京都大学人文科学研究所，1957-59）に広島大学附属図書館所蔵と記載されている『六臣註文選』項氏万巻堂刊本の調査を試みたが、残念ながらこの本は行方不明であった。

（３）清平山堂刊本の所蔵状況について

清平山堂刊本の所蔵状況について、各種の書目、図書館目録等に基づき現状を整理した。そのうち、清平山堂刊行の医薬書については本研究期間中に実見調査を行うことはかなわなかった。今後の課題としたい。

（４）清平山堂以外の出版に関する研究

九州大学附属図書館に設置される濱文庫所蔵唱本を対象に、詳細な書誌目録の作成を行った。この作業をとおして、多様な版本を実際に調査することによって、清平山堂刊本の特徴を多角的な観点から考察する視座を獲得した。またあるテキストが繰り返し刊刻される場合の文字や版式の異同、同一の版木を用いて異なる書肆から繰り返し印行されることなど、実際の出版事情に関わる多くの実例を収集した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計８件）

①中里見敬、中国語の自由間接話法について、『東アジア文化交渉研究』別冊第７号（関西大学文化交渉学教育研究拠点）、123-139頁、2011、査読無

②中里見敬・山根泰志・戚世雋編、濱文庫所蔵唱本目録稿（二）、『言語科学』第 46 号（九州大学言語文化研究院言語研究会）、147-166 頁、2011、査読無

③リディア・リウ著、西村正男・中里見敬訳、正統化する言説としての文芸批評、『言語文化論究』第 26 号（九州大学言語文化研究院）、171-198 頁、2011、査読無

④中里見敬、濱文庫所蔵の欧陽予倩致濱一衛書簡について、『中国文学論集』第 39 号（九州大学中国文学会）、150-164 頁、2010、査読無

⑤中里見敬・山根泰志編、濱文庫所蔵唱本目録稿（一）、『言語科学』第 45 号（九州大学言語文化研究院言語研究会）、117-137 頁、2010、査読無
http://hdl.handle.net/2324/16813

⑥中里見敬、日本九州大学滨一卫文库所藏戏剧资料简介、『第八届中国古代小说、戏曲文献与数字化研讨会论文集』、174-180 頁、2009、査読無
http://hdl.handle.net/2324/15436

⑦中里見敬、论日本内阁文库藏清平山堂所刊小说 ： 以版式与刻字特点为视角、陈庆元主编『明代文学论集』（福州：海峡文艺出版社）、688-708 頁、2009、査読無
http://hdl.handle.net/2324/15552

⑧リディア・リウ著、中里見敬訳、普遍性を立法する：19 世紀における国際法の流通、『言語文化論究』第 24 号（九州大学言語文化研究院）、123-155 頁、2009、査読無

⑨中里見敬、濱文庫所蔵戯単編年目録、『中国文学論集』第 37 号（九州大学中国文学会）、

155-168 頁、2008、査読無
http://hdl.handle.net/2324/13200

〔学会発表〕（計２件）
①中里見敬、关于汉语自由间接引语、第 5 届国际研讨会“语言的接触与变异:汉语的近代演化与外语”、2010 年 8 月 1 日、関西大学（吹田市）
http://hdl.handle.net/2324/17882
②中里見敬、日本九州大学滨一卫文库所藏戏剧资料简介、第八届中国古代小说、戏曲文献与数字化研讨会、2009 年 8 月 17 日、首都師範大学(中国･北京市)
http://hdl.handle.net/2324/15433

〔図書〕（計３件）
①濱一衛著、中里見敬整理、『中国の戯劇・京劇選』、花書院、2011、354 頁
②九州大学百年の宝物刊行委員会編、『九州大学百年の宝物』、丸善プラネット、2011、227 頁（114-115 頁）
③並木頼寿・大里浩秋・砂山幸雄編、『近代中国・教科書と日本』、研文出版、2010、546 頁（394-415 頁）

６．研究組織
(1)研究代表者
中里見　敬（NAKAZATOMI SATOSHI）
九州大学・言語文化研究院・准教授
研究者番号：３０２５０９６３